

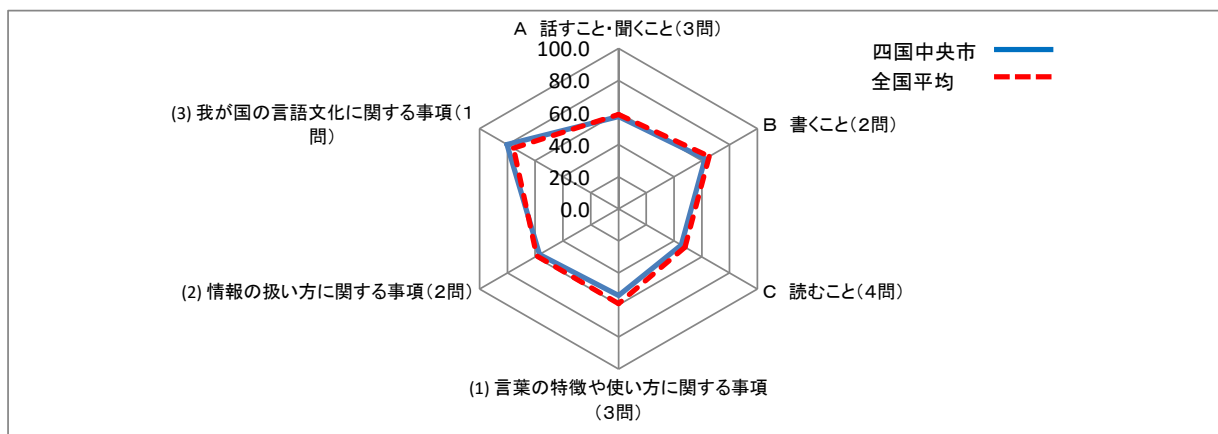
令和6年度全国学力学習状況調査の結果について四国中央市の中学生の状況についてお知らせします。

1 学力の状況

レーダーチャートは、各領域における正答率を示しています。項目の後の（ ）内の数字は、対象問題数を表しています。問題によっては、複数の項目に含まれる場合があります。

国語科、数学科ともにほとんどの領域において、平均正答率が全国平均を下回りました。数学科においては、「数と式」以外の領域については、昨年度の数値を上回り、改善傾向にありますが、国語科、数学科ともに課題があるようです。それぞれの分析は以下の通りです。

国 語

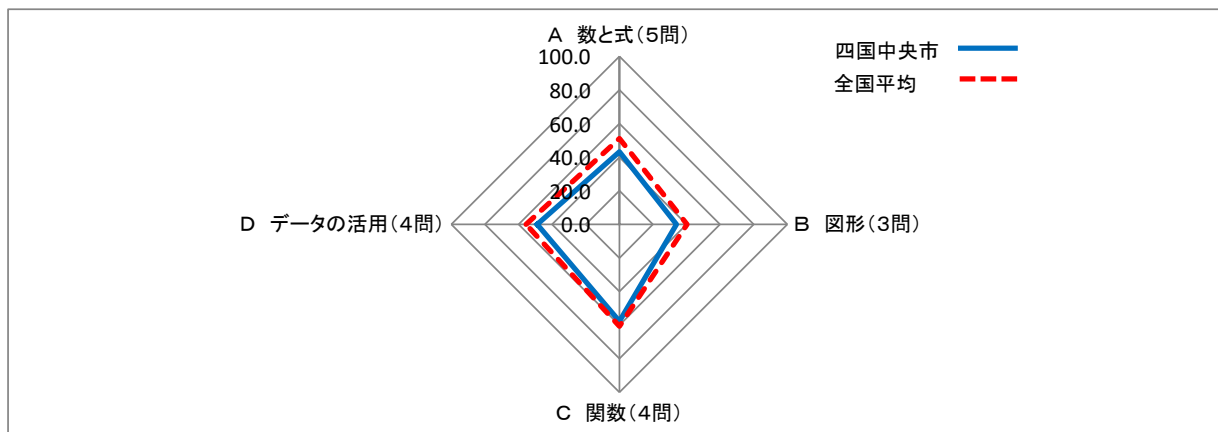


【国語分析】

「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、正答率が全国平均を5ポイント近く上回っています。行書の特徴を踏まえた書き方について、しっかり理解できています。また、必要に応じて質問しながら内容を捉えたり、目的に応じて集めた情報を整理し伝えたいことを明確にしたりすることに関する問題においても全国平均を上回っています。しかし、領域別にみると全国平均を下回っており、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られます。文中の語句の順序等について考察したり、文脈に即して漢字を正しく書いたりする問いで正答率が低いという結果でした。

引き続き、ICTの有効活用により、自分の考えをまとめたり、それを基に話し合ったりする活動を進めるとともに、漢字や文章をノートに書く活動なども積極的に取り入れ、力を付けていきます。

数 学

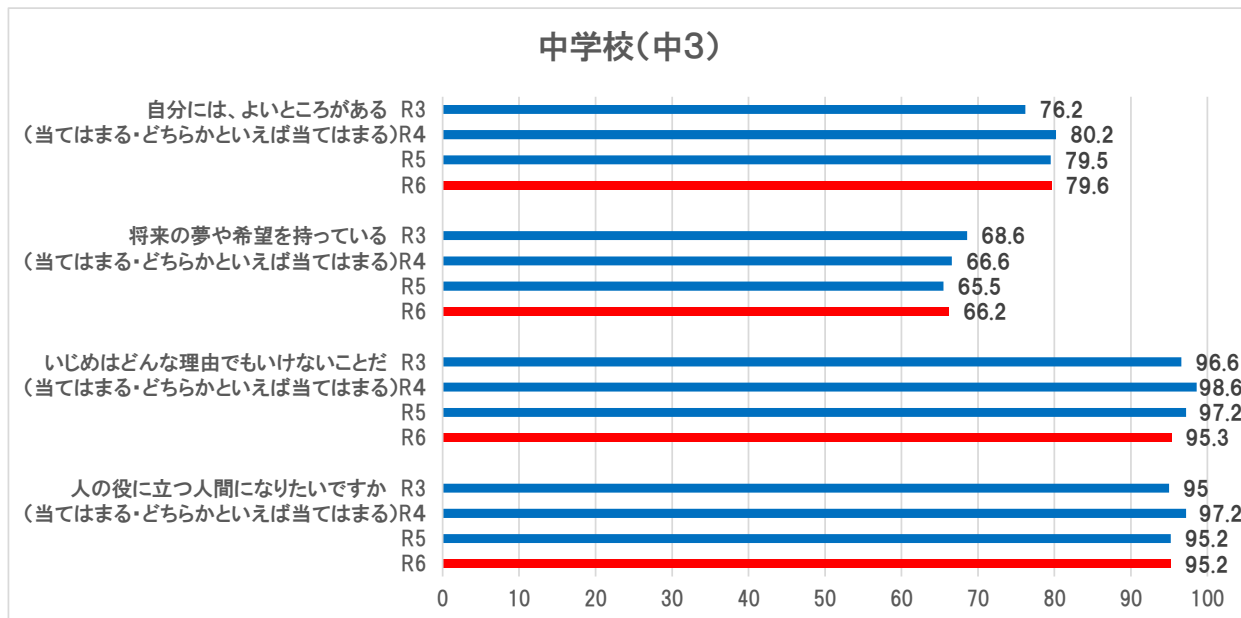


【数学分析】

全ての領域、全問題において、正答率は全国平均を下回っており、課題が見られます。特に、既習内容を基に筋道を立てて証明したり、数学的な表現を用いて自分の考えを説明したりする記述式問題において、正答率が低く、無解答率が高くなっています。また、領域別にみると「数と式」では、昨年度の正答率を下回っており、連続する二つの偶数を文字を用いて表したり、等式を解いたりする問題に課題が見られました。

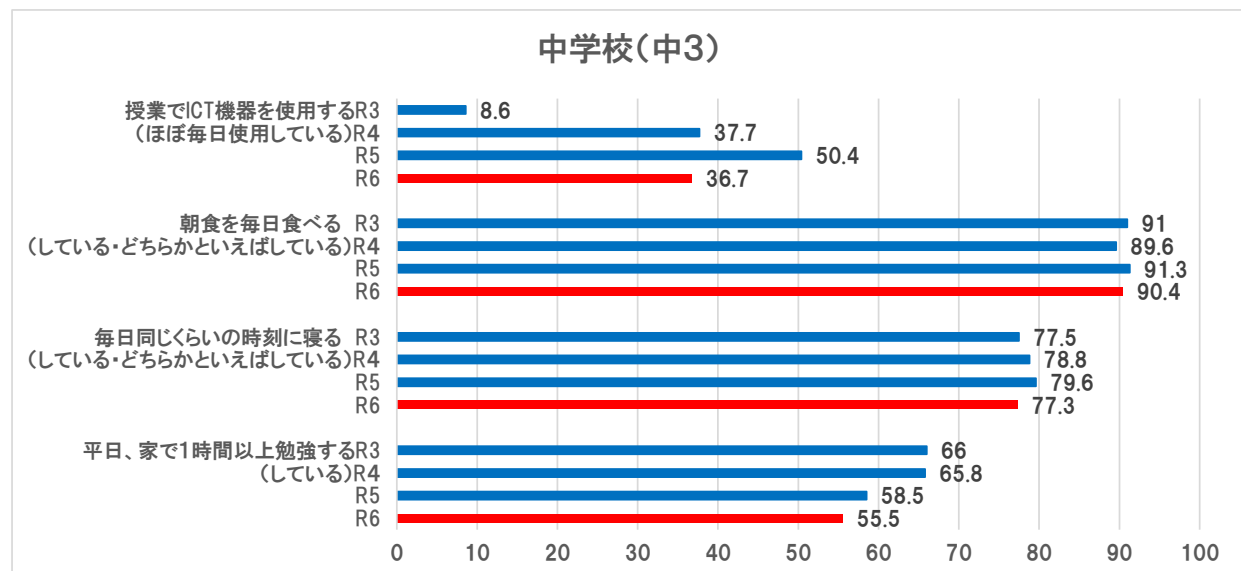
引き続き、授業の中で、ICTを活用して自分の考えを分かりやすく説明したり、友達の考えを共有し、多様な考え方に触れる活動を重視するとともに、ドリル学習による基礎・基本の徹底に努めていきます。

2 心の状況



3 生活習慣の状況

※ 生活の中にICT機器が大きく関わってきていることと、GIGAスクールの実現による確かな学力を基盤とした未来を拓く力の育成を目指している本市として、授業でのICT活用についての項目を掲載しています。



【分析】

心の状況については、「自分にはよいところがある」「将来の夢や希望を持っている」については、昨年度を上回っており、「人の役に立つ人間になりたい」も昨年度と同じ数値になっています。学校行事等、様々な活動がコロナ禍前のものに戻り、豊かな体験活動や人との交流を通して、意欲的に学んだり、ふれ合ったりすることで、心の状況が改善傾向にあります。

生活習慣の状況については、4項目全てにおいて昨年度を下回りました。「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る」については、全国平均も下回っています。引き続き、規則的な生活習慣の定着に向けて、学校保健委員会等の活動をとおして、家庭との連携により改善に努めてまいりますので、ご協力をお願いします。また、「平日、家で1時間以上勉強する」については、昨年度よりも減少し、全国平均を下回っています。1人1台端末を活用した課題の提示方法の工夫など生徒の意欲を高め、自主的に学習に取り組めるよう改善していきます。

授業におけるICT機器の使用については、全国平均を大きく上回っているものの、昨年度と比べると大きく減少しています。これは、ICTの有効性を見極め、アナログによる活動とのベストミックスにより、「分かる、楽しい」授業づくりが進んでいることの表れと捉えられます。今後も1人1台端末の有効活用と実際に書いたり、それを基に話し合ったりする従来の活動をうまく組み合わせた授業改善に取り組み、生徒の学習意欲向上に努めていきます。